

- スクールフォーカスト研修の考えを深めながら、研修の全体構想を明確にして研修ニーズを集約し、分担を確認する。
  - 現職教育研修部・委員会の仕事内容を明確にし、各自の考えが大切にされるような研修推進の手続きを確立する。
  - 学校経営全体を通してリーターシップが発揮できるように配慮し、研修意欲がいっそう高まる研修組織を工夫する。
- <実施の段階>
- 研修分担を明確にし、個人研修を位置づけ、協働意欲を高めて研修推進できる体制づくりに努力する。
  - 研修成果の活用と校外研修の伝達を意図的に位置づけ、相互啓発と研修内容の共有化を図る工夫改善をする。
- <評価の段階>
- 形成的評価やグループ相互評価等、多様な評価方法を取り入れた校内研修評価計画を整備し、意図的な実施に努める。

## 2 基礎・基本の定着と個性の伸長に関する研究

学習指導部 (第1年次)

研究主題に基づく理論構築と研究仮説設定のため、県下小中高등학교51校(規模別5%抽出) 1,085名と児童生徒1,728名を対象に、学習指導の現状と意識の実態調査を行った。調査結果から、「基礎・基本の定着と個性の伸長」に対する取り組みの概要が、次のように要約できた。

〔学習指導の現状〕

一斉指導を中心に行われているが、個別指導もかなり組み込まれている。基礎・基本の内容に、「関心・態度」まで含めて考えている教師は多いが、指導にとまどいを示している。

〔個人差に応じた指導の現状〕

個人差に応じた指導の必要性は強く感じているが、その対応には極めて困難であると感じている。特に「見方や考え方」についての意識の低さは、児童生徒の実態も同様である。

〔個別化・個性化をめざす学習形態〕

「学習コース」を選択するなど、一人一人が目標を設定して進める学習については、現段階では困難さがうかがえる。

〔教育システム〕

ティーム・ティーチングによる指導の必要性は強く感じているが、ほとんど行われていない。

〔基礎・基本の定着と個性の伸長〕

小中学校教師の多くは、基礎・基本と個性伸長を段階的のとらえ、高等学校教師の多くは、同時的と考えている。

## 3 自己教育力を育成するための学校教育の改善に関する実践的研究

科学技術教育部 (第2年次)

第1年次は、自己教育力を育てる評定尺度を設定し、集団としての指導のあり方を追究した。第2年次は、県下小中高등학교10校の協力を得て、個に視点を当てた指導のあり方を研究した。研究概要をまとめると、次のようになる。

- 1 12要素からなる評定尺度で調べると陥没要素が分かる。
  - 2 陥没要素を補完する手だてを考え指導すると向上する。
  - 3 YG性格検査や環境条件を考慮すると有効性が高まった。
- 不安傾向の強い児童生徒には、長所を認め賞賛したりあたたかい雰囲気の中で自信を持たせたりするとよい。

- 情緒的には安定していても意欲に欠ける児童生徒には責任を持たせ、揺さぶり、成就感を味わわせるとよい。
  - 内向的で感情をあまり表さない児童生徒には、発表の機会を多く与え、自己表現させ、外向性を高めるとよい。
- 4 自己教育力は、自他を意識する中で向上していく。
  - 5 自己教育力は、学級集団やグループ活動など、集団とのかかわりの中で育成されるべきものと考えられる。

## 4 事例を通じた教育相談の進め方に関する研究

— 非社会的行動をもつ児童生徒への心理的な指導援助 —  
教育相談部 (第2年次)

第1年次は、非社会的行動をもつ児童生徒に対し、よりの確で効果的な教育相談を進める要点11項目を明らかにした。第2年次は、要点11項目の「手引」を作成し、県内小中高등학교の事例を通して検証した結果、次のことが明らかになった。

- 1 要点11項目によって指導援助に当たった結果、次のことから特に非社会的行動の改善に有効にはたらいた。
  - ①共感的に理解すること。
  - ②意図的に早期発見すること。
  - ③本人や家族とラポール(リレーション)を形成すること。
  - ④多次元に資料収集すること。
  - ⑤指導援助体制を整えること。
  - ⑥専門機関と連携すること。
  - ⑦素因にアプローチすること。
  - ⑧家族にも気づかせること。
  - ⑨受容できる集団にすること。
  - ⑩フィードバックすること。
  - ⑪改善後も様子を見守ること。
- 2 要点11項目は、教師自身の指導力の向上にも役立った。

## 第4節 教育相談

対象別延べ人数

区分 種別	幼	小	中	高	一般	教員	計
来所相談	104	220	268	118	1,075	209	1,994
移動相談							
電話相談	27	309	683	396	21	8	1,444

主訴別延べ人数

区分 種別	知能 学業	性格 行動	身体 反応	進路 適性	教育 一般	計
来所相談	152	1,658	81	20	83	1,994
移動相談						
電話相談	8	1,285	53	21	77	1,444

地区別延べ人数

県北	県中	県南	会津	南会津	いわき	相双	計
1,413	207	86	72	0	38	178	1,994